



## 救援募金目標達成のために具体的な取り組み

### 教団救援対策本部 第4回会議開催



東京山手教会、渋谷駅に近く若者で賑わう街に立つ

現在で1億302万818円（および35万ユーロ）の報告がなされた。活動としては、日本キリスト教会館1階の11号室に、教団救援対策本部事務局開設の準備を進めていること、東北教区被災者支援センター（エマオ）における手にボランティア関連の活動、石巻築山におけるリク拠点立ち上げの準備状況、遠野における自殺防止センター活動拠点立ち上げ報告がなされた。

開会の後、震災関係の募金の状況として、東日本大震災緊急救援募金（6月末）で1066件、9441万8359円、東日本大震災救援募金（8月2日現在）で61件、727万594円、海外からの献金（7月25日）

常設委員会での「救援対策本部」の設置、「海外献金プロジェクト」の可決が報告された。他、常設専門委員会・自治活動団体からの諸報告を受けた。その中で「伝道方策検討委員会」設置経

緯が詳しく説明され、特に次のように報告された。「委員会は、今のことろ『伝道局』設置を将来に見据えて、教団内伝道団体との協働を模索しつつ具体的な伝道事例を研究していく。」

その後、2012年3月に開催予定の「宣教方策会議」について協議がなされた。

張田委員長は、「宣教基礎理論」（1963年）、「社会活動基本方針」（1966年）を振り返り、さらに1969年に勃発した教団紛争が教団の「宣教論」にどのような影響を与えてきた

## 「宣教」「伝道」の定義を求め篤い議論

### 第2回宣教委員会

告白に基づいて定義がなされるべきである。

協議の結果、主題は「伝道と伝道協力」、副題として「共通理解と協働を求めて」を掲げることとした。

「会議の正常化は何とか果たしたが、信仰職制上の不一致がもたらす混乱と伝道の低迷は深刻な形で今も続いている。本来、教団における『宣教』『伝道』はどうあるべきか、その定義を

頼する。

社会事業同盟施設、キリスト教主義学校、幼稚園、保育園の現場からは「ギリ

スト教についてちゃんと教えて欲しい」との要望があ

ることが紹介され、教会教

会を開じるあたり、石井錦一委員が閉会祈祷を捧げた。

尚、次回は10月3日（月）～4日（火）の開催を予定している。

（真志敬篤報）

会を開じるあたり、石井錦一委員が閉会祈祷を捧げた。

尚、次回は10月3日（月）～4日（火）の開催を予定している。（真志敬篤報）

会を開じるあたり、石井錦一委員が閉会祈祷を捧げた。

尚、次回は10月3日（月）～4日（火）の開催を予定している。（真志敬篤報）

会を開じるあたり、石井錦一委員が閉会祈祷を捧げた。

はなく、当たり前のあることが当たり前にあるといふことだ。▼山や森に出かけると、決まって言う。

「空気がおいしい」。本当にいいだらうか。どんな味があるのか。だったら、おいしくて、むしろ、不純な物が混じつて、部屋の空氣に混ぜた

言葉として「東日本大震災に関する宣教委員長声明」を宣教委員会より出すこと

は承認された。

励まし、支援へ呼びかける

言葉として「東日本大震災

に関する宣教委員長声明」を宣教委員会より出すこと

は承認された。



